

# 羅針盤

第38号

平成23年12月22日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

ICT活用授業のための校内研修は

## 「授業づくり」の研修を！

「何を、どう映して、どのように指導するか」を話し合うことがポイントです

ICT活用校内研修は「児童生徒がつまずきやすい学習場面や、指導に困難を感じる場面を取り上げ、ICTを用いて、どのように指導すると分かりやすくなるかといったことをディスカッションしたり、ICTを活用した指導場面を取り上げ、模擬的な授業をお互いに行ったりする研修」が重要であることが「教育の情報化に関する手引（文部科学省、平成22年10月）」に、示されています。今回は、ICT機器の中でも、扱いやすい実物投影機を取り上げ、ICT活用研修のポイントをお示しします。（写真提供；総社市立常盤小学校）

### 1 接続の仕方を体験する



実物投影機とプロジェクタ（デジタルテレビ）の接続の仕方を体験します。一度体験すれば、教材を大きく映すことができるようになります。

### 2 焦点化のコツを体験する



「アームを動かす」「指さし」「書き込み」「付せん紙で隠す」などにより、大きく映したものを更に「焦点化」し、児童生徒に注目させるコツを身に付けます。

### 3 授業場面を話し合う



どのタイミングで、何を拡大提示し、どう焦点化するか、その時の教師の発話（発問・説明・指示）はどうするかを話し合います。

### 4 模擬授業で確かめる



話し合った結果を模擬授業で実際に行うことで、実物投影機を活用して指導するコツを確認します。

県内6小学校で、①～④の流れで実物投影機活用校内研修を実施した結果、特に③④の研修を繰り返し実施することが、重要であることが明らかになってきました。詳細は「平成23年度岡山県総合教育センター教育研究発表大会＜平成24年2月24日（金）＞」でご報告いたします。ぜひ、ご参加ください。

（担当；情報教育部 片山 淳一）

【バックナンバー】<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>